

## 地域に根差した青果卸が DX に踏み出す！課題の可視化から具体的な改善計画の策定まで、社外プロの寄り添ったサポートで生産性向上を目指す（三和新静株式会社）

静岡市では、デジタル技術を活用して業務変革を目指す市内中小企業を支援する「中小企業等 DX 支援事業（以下、本事業）」を実施いたしました。本事業は、株式会社ビザスクがマッチングする各企業の事業領域・課題に最適な社外プロ人材が伴走支援することで、参加企業にとって実行可能かつ持続可能な取り組みを目指すものです。

今回は三和新静株式会社の取り組みについて、社長 山本繁則様、専務 山本芳裕様にインタビューしました。



右：山本社長、左：山本専務

### Q 御社の概要について教えてください

静岡県静岡市の中央卸売市場で青果仲卸業を営む事業者として、静岡県内を中心としたスーパーや飲食店へ、安全でおいしく、地域性を活かした新鮮な青果の卸をしています。県内・市内の仲卸業者にコードチェーンが整備されているところが無かった点に着目し、2020年には大型の投資を実施してフレッシュセンター（大規模低温倉庫）を新たに開所しました。



フレッシュセンター外観写真

Q 本事業に参加した経緯を教えてください。

事業・組織のDX課題の解決を検討していましたが、業界の古い慣習等もあり優先度が上がらず着手に踏み込めない状態が続いていました。

そんな中、本事業をウェブで目にし、会社が新しいチャレンジを踏み出すきっかけになればと思い参加しました。特に営業メンバーの業務が改善し、本来対応すべきことにより注力できる環境作りに貢献できればと考えました。

Q DXの目的をどのように考えていますか。

青果仲卸という歴史のある業態の中においても法律や市場環境等が大きく変容している中で、その変化にスピーディに対応し、自社の競争力を高めることだと考えます。DXを推進することで取引先や社員を含むステークホルダーを守り、よりサステナブルな事業推進が実現できればと思います。また、社内業務の生産性を向上させることで従業員の負担を減らし、満足度の向上を目指します。



オフィス写真

Q エキスパートの決め手を教えてください。

当社と類似した業態や課題を持つ企業への豊富な支援実績から、エンジニアなどの技術職のいない当社のDX推進にも理解を示し、前向きに支援してくださる方だと感じました。

また、ご自身が地元出身の若手実業家ということから、スムーズに連携しながら中長期的な伴走支援を期待していました。

Q 具体的な取り組み内容を教えてください。

井の中の蛙状態で初めて見聞きするような情報が多かったですが、エキスパートの様々なサポートや提案を受けながら、実際に業務改善に取り組む項目を決めていきました。

まずは、エキスパートによる現地視察及び現状業務の確認を行い、課題を可視化しました。それらを踏まえて、目指すゴールを明確にし、取り組むべきことの優先順位・推進計画をエキスパートのアドバイスをもとに決定しました。

また、新システム導入に向けた具体的戦略を設定し、スケジュール案を策定しました。

Q 本事業による変化・成果を教えてください。

当社は元々DXに関する知見が不足していましたが、エキスパートの支援によって現状と具体的な課題を明確にし、業務改善に向けて新たに着手すべき取り組みとそれぞれの優先度について理解を深めることができました。

また、現状課題を可視化することで、営業メンバーがそれぞれ独自の方法で業務を進めているために個人差が大きいことが明らかになりました。このことから、マネジメント層の業務理解が進み、今回のDX推進にて業務標準化に向けて踏み出しました。

さらに、今後継続的にDX推進を行うことに関して、会社として合意できた点もよかったです。現在はDX担当をつけて、書類の読み込みをAI-OCRにて実施するためトライアルを開始しております。



左：DX推進担当、右：AI-OCR読み取り写真

Q 今後の展望について教えてください。

まずは、事務作業の多い営業チームの業務改善を行い、DXの考え方や取り組みを社員に浸透させていきたいです。

最終的にはDXを通じて、全社的な業務効率化や改善を進め、作業の工程数や手作業による人的ミスを減らし、現場の生産性を向上させることで利益を最大化したいと思います。

